

## 内科学第三

著 書

- 1) 小林祥泰：神経・筋疾患の治療の動向．山口 徹，北原光夫，福井次矢編：今日の治療指針 2007年度版，医学書院，東京，611，2007
  - 2) 山口修平：神経痛（三叉神経痛、舌咽神経痛、後頭神経痛）．山口 徹，北原光夫，福井次矢編：今日の治療指針 2007年度版，医学書院，東京，661，2007
  - 3) ト蔵浩和，小林祥泰：ビンスワンガー型血管性認知症、および無症候性脳梗塞から血管性軽度認知障害への移行例．葛原茂樹（監修）：精神・神経疾患画像アトラス，メディカルレビュー社，大阪，70-74，2007
  - 4) 山口修平，三瀧真悟，木谷光博，岡田和悟，山下一也，長井篤，ト蔵浩和，小出博己，福田準，今岡かおる，須山信夫，土谷治久，山形真吾，足立智英，飯島献一，小黑浩明，梅枝伸行，檜垣雄治，高橋一夫，稲福麻衣子，豊田元哉，河野直人，松井龍吉，若林規良，塩田由利，松原美和，岩田裕子，渡辺達三，山口拓也，門脇秀和：神経疾患エッセンシャルドラッグ105．山口修平（編集），ト蔵浩和（編集協力），南江堂，東京，2007
  - 5) 小林祥泰：血管性認知症のリスクと早期診断．認知症の予防と治療，長寿科学振興財団，東京，147-154，2007
  - 6) 村川洋子：炎症性筋疾患．杉本恒明，矢崎義雄編：内科学 第9版，朝倉書店，東京，1946-1949，2007
  - 7) 長井 篤，益田順一：第 部 疾患別に有用な検査 第25章 脳血管障害．社団法人日本薬学会編：知っておきたい臨床検査値 第1版1刷，株式会社東京化学同人，東京，74-77，2007
  - 8) 山口修平：血管性認知症．山口 徹，北原光夫，福井次矢編：今日の治療指針 2008年度版，医学書院，東京，671-672，2008
  - 9) 山口修平：末梢神経障害（ベル麻痺）．山口 徹，北原光夫，福井次矢編：今日の治療指針 2008年度版，医学書院，東京，697-698，2008
  - 10) 内科診断学 第2版，福井次矢，奈良信雄編：医学書院，東京，2008
- 長井 篤，小林祥泰：脳出血．  
小黑浩明，小林祥泰：Bell 麻痺．  
須山信夫，小林祥泰：神経痛（三叉、舌咽、肋間、坐骨神経）．  
須山信夫，小林祥泰：片頭痛、緊張型頭痛．  
高橋一夫，小林祥泰：高血圧性脳症．  
山口修平：脳梗塞．  
小林祥泰：無症候性脳梗塞．

岡田和悟，小林祥泰：一過性脳虚血発作．  
須山信夫，小林祥泰：慢性硬膜下血腫．  
山口修平：くも膜下出血．  
小黒浩明，小林祥泰：側頭動脈炎．  
長井 篤，小林祥泰：脳腫瘍．  
小黒浩明，小林祥泰：下垂体腺腫．  
長井 篤，小林祥泰：急性化膿性髄膜炎．  
長井 篤，小林祥泰：結核性髄膜炎．  
長井 篤，小林祥泰：真菌性髄膜炎．  
長井 篤，小林祥泰：ウイルス性髄膜炎．  
長井 篤，小林祥泰：ヘルペス脳炎．  
長井 篤，小林祥泰：遅発性ウイルス性脳炎．  
長井 篤，小林祥泰：日本脳炎．  
土谷治久，小林祥泰：Reye 症候群．  
山口修平：AIDS 認知症症候群．  
長井 篤，小林祥泰：Alzheimer 型老年認知症．  
小林祥泰：脳血管性認知症．  
岡田和悟，小林祥泰：正常圧水頭症．  
岡田和悟，小林祥泰：Parkinson 病．  
岡田和悟，小林祥泰：Huntington 病とその他の舞踏病．  
岡田和悟，小林祥泰：脊髄小脳変性症．  
岡田和悟，小林祥泰：Shy - Drager 症候群．  
高橋一夫，小林祥泰：筋萎縮性側索硬化症．  
高橋一夫，小林祥泰：Guillain - Barre 症候群．  
土谷治久，小林祥泰：多発性硬化症．  
土谷治久，小林祥泰：てんかん．  
今岡かおる，小林祥泰：進行性筋ジストロフィー．  
今岡かおる，小林祥泰：筋緊張性ジストロフィー．  
今岡かおる，小林祥泰：ミトコンドリア脳筋症．  
土谷治久，小林祥泰：HAM．  
山下一也，小林祥泰：重症筋無力症．  
山下一也，小林祥泰：周期性四肢麻痺．  
山口修平：うつ病．  
山口修平：心身症．

11) 小林祥泰：春林軒で華岡青州に学んだ小林文慶の足跡．

島根大学付属図書館医学分館大森文庫出版編集委員会編：華岡流医術の世界，ワンライン，

出雲，194 - 206，2008

12) 小林祥泰：脳ドックと無症候性病変への対応 未破裂脳動脈瘤．

小林祥泰：脳ドックと無症候性病変への対応 無症候性脳梗塞．

小林祥泰：脳ドックと無症候性病変への対応 無症候性脳出血．

小林祥泰：脳ドックと無症候性病変への対応 無症候性頸部および脳主幹動脈狭窄・閉塞．

田中耕太郎，高嶋修太郎編：必携 脳卒中ハンドブック，診断と治療社，東京，2008

13) ト蔵浩和，山口修平：Metabolic syndrome と脳梗塞について教えてください．

棚橋紀夫，北川泰久編：脳卒中診療 こんなときどうするQ&A，中外医学社，東京，2

34 - 236，2008

14) 脳卒中 最新Q&A，小林祥泰編：医歯薬出版，東京，2008

小黒浩明：血液をサラサラにする薬は脳卒中すべてによいのでしょうか？

山口修平：脳卒中は救急疾患なのでしょうか？

飯島献一：脳卒中の救急治療体制は整っているのでしょうか？

小林祥泰：脳卒中の専門医はいるのでしょうか？

ト蔵浩和：脳卒中に本当に有効な治療法があるのでしょうか？

ト蔵浩和：脳梗塞の血栓を溶かすt - P Aって何でしょうか？ どこまで効くのでしょうか？

ト蔵浩和：脳血管に詰まった血栓が溶ければ本当によくなるのでしょうか？

ト蔵浩和：発病から3時間以上経過していたらt - P Aはまったく効かないのでしょうか？

山口修平：脳卒中になるとぼけやすいというけれど，本当でしょうか？

山口修平：脳卒中後にうつ状態になりやすいのはなぜでしょうか？

山形真吾：脳卒中になるとやる気がなくなるというけれど，本当でしょうか？

松原美和：脳卒中のリハビリテーションとは何をするのでしょうか？

小黒浩明：血液をサラサラにする薬は脳卒中すべてによいのでしょうか？

山形真吾：血栓予防のワルファリンを飲んでいて，どうして納豆を食べてはいけないのでしょうか？

松原美和：脳卒中になるとむせやすくなるのはなぜでしょうか？

足立智英：脳血管性パーキンソン症候群とはどのような病気でしょうか？

足立智英：脳梗塞にアスピリンはどうして効くのでしょうか？

足立智英：高脂血症薬のスタチンが脳梗塞予防によいのはどうしてでしょうか？

足立智英：高血圧の薬はどのタイプが脳卒中予防によいのでしょうか？

足立智英：血圧はどれくらいに下げたら脳梗塞の予防ができるのでしょうか？

木谷光博：太りすぎると脳卒中になりやすいというけれど，本当でしょうか？

白澤 明：運動は脳卒中予防によいと聞きましたけれど，本当でしょうか？

白澤 明：タバコはどうして脳卒中を起こしやすくするのでしょうか？

白澤 明：男やもめは脳卒中になりやすいというけれど、本当でしょうか？

白澤 明：塩辛いものが大好きな人は脳卒中になりやすいというけれど、本当でしょうか？

松井龍吉：脳卒中に効く漢方薬ってあるのでしょうか？

門脇秀和：赤ワインは心筋梗塞や脳梗塞の予防効果があるというけれど、本当でしょうか？

門脇秀和：煎茶（緑茶）をたくさん飲むと脳卒中になりにくいというけれど、本当でしょうか？

門脇秀和：どのような心疾患があると脳卒中になりやすいのでしょうか？

門脇秀和：眼底出血は脳卒中の前触れというけれど、本当でしょうか？

松井龍吉：ぐるぐると回るようなめまいがするのですが、脳卒中の前触れでしょうか？

松井龍吉：いつも頭が重いのですが、これは脳卒中の前触れなのでしょうか？

松井龍吉：片頭痛があると脳卒中になりやすいというけれど、本当でしょうか？

小林祥泰：アスピリンを飲んでしていると脳出血になったとき血が止まりにくいというけれど、本当でしょうか？

山口修平：脳卒中とはどのような病気でしょうか？

飯島献一：脳卒中になっても命は助かるのでしょうか？

小黒浩明：脳卒中は予防できるのでしょうか？

木谷光博：若い人でも脳卒中になるのでしょうか？

小林祥泰：脳卒中に関する間違った常識とは何でしょうか？

岡田和悟：脳卒中にはどのようなタイプがあるのでしょうか？

小林祥泰：一過性脳虚血発作（transient ischemic attack：TIA）とはどういうものですか？

ト蔵浩和：脳梗塞とは何でしょうか？

岡田和悟：脳血管性認知症とは何でしょうか？

小出博己：高血圧性脳症とは何でしょうか？

小林祥泰：一過性脳虚血発作（TIA）はどのようにして起こるのでしょうか？

山口修平：アテローム血栓性梗塞はどのようにして起こるのでしょうか？

岡田和悟：ラクナ梗塞はどのようにして起こるのでしょうか？

足立智英：心原性脳塞栓はどのようにして起こるのでしょうか？

足立智英：心房細動とは何でしょうか？ 心房細動になったらどうすればよいのでしょうか？

長井 篤：脳出血はどのようにして起こるのでしょうか？

岡田和悟：脳血管性認知症はどのようにして起こるのでしょうか？

小出博己：高血圧性脳症はどのようにして起こるのでしょうか？

小林祥泰：一過性脳虚血発作（TIA）の治療法はどのようなものなのでしょうか？

小黒浩明：アテローム血栓性梗塞の治療法はどのようなものなのでしょうか？

小黒浩明：ラクナ梗塞の治療法はどのようなものなのでしょうか？

豊田元哉：心原性脳塞栓の治療法はどのようなものでしょうか？

山口修平：脳血管性認知症に治療法はあるのでしょうか？

小出博己：高血圧性脳症の治療法はどのようなものでしょうか？

小林祥泰：一過性脳虚血発作（TIA）の予防法はどういうものが考えられますか？

福田 準：アテローム血栓性梗塞の予防法はどのようなものでしょうか？

福田 準：ラクナ梗塞の予防法はどのようなものでしょうか？

豊田元哉：心原性脳塞栓の予防法はどのようなものでしょうか？

福田 準：脳出血の予防法はどのようなものでしょうか？

山口修平：脳血管性認知症に予防法はあるのでしょうか？

小黒浩明：40歳，女性です．仕事中に突然殴られたような激しい頭痛がして嘔吐しました．脳卒中でしょうか？

小黒浩明：12歳，男子です．合唱部で歌っていたら急に右手足の力が抜けて倒れました．どうしたのでしょうか？

小林祥泰：65歳，男性です．糖尿病を放置したままでした．今朝，運転中に急に右目が見えなくなり，2分くらいで回復しましたが，大丈夫でしょうか？

ト蔵浩和：70歳，男性です．高血圧で，糖尿病もあります．今朝起きようとしたら，左手足の脱力があり，起きられませんでした．脳卒中でしょうか？

ト蔵浩和：20歳，女性です．夜中に突然右手が痙攣を起こし，次第に右半身全体が痙攣を起こして気が遠くなりました．どうしたのでしょうか？

飯島献一：80歳，男性です．最近，脈の乱れがあり，胸が苦しいこともあったようです．今朝，散歩中に突然右手足が麻痺して倒れ，言葉も出なくなりました．どうしたらよいでしょうか？

豊田元哉：56歳，女性です．高血圧症でしたが，放置していました．ジョギング中に頭痛，悪心があり，しばらくして左半身が麻痺して倒れてしまいました．脳出血でしょうか？

山口修平：62歳，男性です．メタボリックシンドロームを放置していました．3日前に左半身の脱力発作がありましたがすぐに回復，ところが昨日の夕方から左半身脱力が現れて，様子を見ていたら今朝は動けなくなりました．脳梗塞でしょうか？

小出博己：50歳，男性です．10年前から高血圧で変動が激しかったのですが，昨日から頭痛がひどくなり目がかすんできました．今朝からうとうとしていましたが，昼に痙攣発作を起こしたので救急車を呼んで病院に行きました．どうしたのでしょうか？

須山信夫：65歳，女性です．高血圧症を治療中です．今朝起床時から物言いが悪く，箸が上手に使えなくなりました．様子を見たほうがよいでしょうか？

松井龍吉：58歳，男性です．高血圧で，高脂血症でもあります．テレビを見ていたら左の口の周り左手先がしびれてきました．頸椎症でしょうか？

木谷光博：40歳，男性です．生来健康でしたが，テニス中に急に右頸部痛あり，足がふらついてプレーできなくなりました．そのうち物言いが悪くなり，めまいもしてきました．

どうしたらよいですか？

木谷光博：37歳，女性です．生来健康でしたが，バレーボール中に突然右半身が麻痺して倒れ，言葉も出なくなりました．何が起きたのでしょうか？

15) 脳疾患によるアパシー（意欲障害）の臨床，小林祥泰編：新興医学出版社，東京，2008

小林祥泰：脳血管障害におけるアパシー．

山口修平：アパシー（意欲障害）とは-神経内科の立場から-．

岡田和悟：軽度～中等度例のアパシー（意欲障害）の評価-やる気スコア．

ト蔵浩和：無症候性脳血管障害におけるアパシー（意欲障害）．

山口修平：アパシー（意欲障害）と事象関連電位．

岡田和悟：アパシー（意欲障害）と脳血流．

岡田和悟：脳血管性アパシー（意欲障害）の治療．

## 学術論文，研究報告等

- 1 )Yang JJ ,Shiwaku K ,Nabika T ,Masuda J ,Kobayashi S :High frequency of cardiovascular risk factors in overweight adult Japanese subjects . Archives of Medical Research , 38 : 337-344 , 2007
- 2 )Takahashi K ,Bokura H ,Kobayashi S ,Iijima K ,Nagai A ,Yamaguchi S :Metabolic syndrome increases the risk of ischemic stroke in women . Internal Medicine , 46 : 643-648 , 2007
- 3 )Zhang SY ,Shibata H ,Karino K ,Wang BY ,Kobayashi S ,Masuda J ,Nabika T :Comprehensive evaluation of genetic and environmental factors influencing the plasma lipoprotein-associated phospholipase A2 activity in a Japanese population . Hypertens Res , 30 : 403-409 , 2007
- 4 )Toyoda K ,Okada Y ,Kobayashi S :Early recurrence of ischemic stroke in Japanese patients : The Japan Standard Stroke Registry Study . Cerebrovascular Diseases , 24 : 289-295 , 2007
- 5 )Nagai A ,Kim WK ,Lee HJ ,Jeong HS ,Kim KS ,Hong SH ,Park IH ,Kim SU :Multilineage potential of stable human mesenchymal stem cell line derived from fetal marrow . PLoS ONE , 2 : 1272 , 2007
- 6 )小林祥泰 :炉辺閑話 :男脳と女脳どちらが老化しやすい? 日本医事新報 , 4315 : 144 , 2007
- 7 )小林祥泰 :内科 (特集 臨床各領域の動向2006-2007) . 治療 , 89 : 8-11 , 2007
- 8 )ト蔵浩和 ,山口修平 :事象関連電位による前頭葉抑制機能 . 臨床脳波 , 49 : 90-96 , 2007
- 9 )ト蔵浩和 ,小林祥泰 :認知症疾患のおもな神経症候;とくに歩行障害を中心として 脳血管障害 . 老年精神医学雑誌 , 18 : 20-23 , 2007
- 10 )高橋一夫 ,小林祥泰 :早期臓器障害の新しい評価-その臨床的意義- MRI の白質病変の病態と意義 . Medical Practice , 24 : 295-300 , 2007
- 11 )山口修平 :無症候性脳梗塞の意義と対策 . 島根医学 , 26 : 212-220 , 2007
- 12 )ト蔵浩和 ,小林祥泰 :脳ドック [各種疾患に対する検診のエビデンス](特集 検診-エビデンスと論争点) . EBM ジャーナル , 8 : 120-124 , 2007
- 13 )山口修平 :ALS 研究と治療の最近の進歩 . JALSA しまね , 10 : 9-11 , 2007
- 14 )小林祥泰 :平常心是道 . JALSA しまね , 10 : 18 , 2007
- 15 )小林祥泰 :特集に当たって-超急性期における t-PA 静注療法- . 神経治療学 , 24 : 9-10 , 2007

- 16) 小林祥泰: Alteplase (遺伝子組換え) 注射薬市販後調査結果. 神経治療学, 24 : 55, 2007
- 17) 江里健輔, 小川 彰, 小林祥泰, 遠藤重厚, 後藤英司: 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム (地域医療). 文部科学省 大学教育改革プログラム合同フォーラム記録集, 2007
- 18) 山下一也: 検査値の見方. すくらむ, 51 : 12-30, 2007
- 19) 卜蔵浩和: 事象関連電位 (ERP) を用いた大脳高次機能の研究. 神経心理学, 23 : 37-43, 2007
- 20) 小林祥泰: Anti-aging 不老への挑戦 最後まで自分らしく生きるには. メディカフエ, 2 : 8-9, 2007
- 21) 小林祥泰: 予防医学からみた脳卒中 (連載 第22回 関連領域からみた脳卒中). 分子脳血管病, 6 : 57-63, 2007
- 22) 小林祥泰, 高橋一夫: メタボリックシンドロームと脳梗塞の発症. 循環 plus, 7 : 7-9, 2007
- 23) 小林祥泰: 医療安全管理, 日本内科学会雑誌, 96 : 164-169, 2007
- 24) 山口修平: 事象関連電位を用いた研究 -前頭葉抑制機能の解析- (特集/大脳機能の神経生理学的研究の進歩). 神経内科, 66 : 511-518, 2007
- 25) 小林祥泰: 全国標準脳ドックデータベース (特集 脳ドックの現状と課題). 日本医師会雑誌, 136 : 670, 2007
- 26) 小林祥泰: 一過性脳虚血発作 (TIA). Clinical Neuroscience, 25 : 639-641, 2007
- 27) 小林祥泰: エッセイ「松花堂弁当の由来、ご存じですか?」. 日本医事新報, 4347 : 87-88, 2007
- 28) 山口修平, 卜蔵浩和, 長井 篤: 脳血管障害の治療の進歩 (特集/神経疾患治療の進歩 (2006年)). 神経治療学, 24 : 407-410, 2007
- 29) 小林祥泰: 脳虚血に対して内科医は何が出来るか (第104回講演会招請講演). 日本内科学会雑誌, 96 : 1856-1865, 2007
- 30) 卜蔵浩和: 脳血管障害. 調剤と情報 (9月臨時増刊号) 13 : 49-53, 2007
- 31) 山口修平: 前頭葉と記憶 -神経内科の立場から-. 高次脳機能研究, 27 : 222-230, 2007
- 32) 山口修平, Jose Biller, 長田乾, 豊田一則, 長尾毅彦: 脳梗塞予防戦略における抗血小板薬の位置付けを考える: 日米ガイドラインの推奨とエビデンス. Medical Tribune, 72-73, 2007
- 33) 小林祥泰: 脳卒中患者の抑うつを改善する釣藤散. 日経メディカル, 10 : 20-21, 2007
- 34) 塩飽邦憲, 並河 徹, 山口修平, 益田順一, 李 麗梅, 王 涛: メタボリックシンド



- ホームを中心とした特定保健指導の実施とその課題．島根医学，27：22-33，2007
- 35) 小林真佐夫，木佐高志，三上 尚，土谷治久，松原康博：介護老人保健施設「寿生苑」入所者の最近3年間のパルスオキシメトリの臨床経験．島根医学，27：57-66，2007
- 36) 小林祥泰，島田和幸，大櫛陽一：脳梗塞に対する高血圧管理の問題点（座談会）．カレントセラピー，25：69-83，2007
- 37) 小林祥泰：脳梗塞-病期と病態に基づいた治療戦略- エディトリアル．カレントセラピー，25：7，2007
- 38) 小林祥泰：脳卒中データバンク．医学のあゆみ，223：359-364，2007
- 39) 小林祥泰：脳血管性認知症と漢方．漢方と最新治療，16：243-246，2007
- 40) 大櫛陽一，小林祥泰，JSSRS：脳卒中発症と高血圧および高血圧治療の関係に関する疫学的分類．脳卒中，29：777-781，2007
- 41) 井上政弥，津村弘人，川上耕史，高橋 勉，森山一郎，石倉浩人：自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を施行した進行期悪性黒色腫の2例．島根医学，27：39-44，2007
- 42) 三瀧真悟，木谷光博：脳梁体部の小梗塞により他人の手兆候を呈した1例．島根医学，27：61-64，2007
- 43) 加藤規弘，小林祥泰，並河 徹：脳卒中の遺伝素因解明に向けた網羅的アプローチ．文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「ゲノム」4領域2007年度報告書，250-251，2007
- 44) ト蔵浩和：前頭葉機能評価としての事象関連電位．老年期痴呆研究会誌，14：161-165，2007
- 45) 小黒浩明：5-HT<sub>2A</sub> 受容体拮抗薬の胃食道逆流抑制効果について-経管栄養施行下の神経疾患高齢者での検討-．平成18年度セロトニン（5-HT<sub>2</sub>）研究会報告，32，2007
- 46) 長井 篤：難病に伴う神経症症状．すくらむ，54：10-29，2007
- 47) 山口修平：脳梗塞治療の up-to-date．やつか医報，6-7，2007
- 48) 小林祥泰，山口修平：高齢者の認知機能障害の進展予防を目的とした漢方薬医療の確立．平成18年度長寿科学研究事業報告書，31-34，2007
- 49) 山口修平，飯島献一，丸山信之，森竹浩三，坂野 勉，和田昭彦，北垣 一，小松明夫：PDA（personal digital assistant）医用画像伝送システムの応用．平成18年度病院医学教育研究費成果報告書，2007
- 50) 山口修平：脳卒中と認知症の発症機序に関する研究．平成18年度島根難病研究所研究報告，2007

- 5 1 ) 山口修平 : タラソテラピー ( 海洋療法 ) による脳活性化の評価システムの構築 . 平成 1 8 年度島根難病研究所研究報告 , 2 0 0 7
- 5 2 ) Nagai A , Terashima M , Sheikh AM , Notsu Y , Shimode K , Yamaguchi S , Kobayashi S , Kim SU , Masuda J : Involvement of cystatin C in pathophysiology of CNS diseases . *Frontiers in Bioscience* , 1 3 : 3 4 7 0 - 3 4 7 9 , 2 0 0 8
- 5 3 ) Bokura H , Yamaguchi S , Iijima K , Nagai A , Oguro H : Metabolic syndrome is associated with silent ischemic brain lesions . *Stroke* , 3 9 : 1 6 0 7 - 1 6 0 9 , 2 0 0 8
- 5 4 ) Sumita Y , Sugiura T , Kawaguchi Y , Baba S , Soejima M , Murakawa Y , Hara M , Kamatani N : Genetic polymorphisms in the surfactant proteins in systemic sclerosis in Japanese : T/T genotype at 1 5 8 0 C/T ( Thr 1 3 1 Ile ) in the SP-B gene reduces the risk of interstitial lung disease . *Rheumatology ( Oxford)* , 4 7 : 2 8 9 - 2 9 1 , 2 0 0 8
- 5 5 ) Chowdhury MH , Nagai A , Terashima M , Sheik MA , Murakawa Y , Kobayashi S , Yamaguchi S : Chemokine-like factor expression in the idiopathic inflammatory myopathies . *Acta Neurologica Scandinavica* , 1 1 8 : 1 0 6 - 1 1 4 , 2 0 0 8
- 5 6 ) Shinohara Y , Nishimaru K , Sawada T , Terashi A , Handa S , Hirai S , Hayashi K , Tohgi H , Fukuuchi Y , Uchiyama S , Yamaguchi T , Kobayashi S : Sarpogrelate-Aspirin Comparative Clinical Study for Efficacy and Safety in Secondary Prevention of Cerebral Infarction ( S-ACCESS ) : A randomized , double-blind , aspirin-controlled trial . *Stroke* , 3 9 : 1 8 2 7 - 1 8 3 3 , 2 0 0 8
- 5 7 ) Goto H , Shimada Y , Hikiami H , Kobayashi S , Yamaguchi S , Matsui R , Shimode K , Mituma T , Shintani T , Ninomiya H , Niizawa A , Terasawa K : Effect of Keishibukuryogan on silent brain infarction over 3 years . *Kampo Medicine ( 日本東洋医学雑誌 )* , 5 9 : 4 7 1 - 4 7 6 , 2 0 0 8
- 5 8 ) Ohta H , Maruyama M , Tanabe Y , Hara T , Nishino Y , Tsujino Y , Morita E , Kobayashi S , Shido O : Effects of redecoration of a hospital isolation room with natural materials on stress levels of denizens in cold season . *International Journal of Biometorology* , 5 2 : 3 3 1 - 3 4 0 , 2 0 0 8
- 5 9 ) Umegae N , Nagai A , Terashima M , Watanabe T , Shimode K , Kobayashi S , Masuda J , Kim SU , Yamaguchi S : Cystatin C expression in ischemic white matter lesions . *Acta Neurol Scand* , 1 1 8 : 6 0 - 6 7 , 2 0 0 8
- 6 0 ) Ozaki A , Nagai A , Lee YB , Myong NH , Kim SU : Expression of cytokines and cytokine receptors in human Schwann cells . *Neuroreport* , 1 9 : 3 1 - 3 5 , 2 0 0 8
- 6 1 ) Serizawa M , Nabika T , Ochiai Y , Takahashi K , Yamaguchi S , Makaya M , Kobayashi S , Kato N : Association between PRKCH gene polymorphisms and subcortical silent brain infarction . *Atherosclerosis* , 1 9 9 : 3 4 0 - 3 4 5 , 2 0 0 8

- 62) Zheng D, Oka T, Bokura H, Yamaguchi S: The key locus of common inhibition network for NoGo and stop-signals. *Journal of Cognitive Neuroscience*, 20: 1434-1442, 2008
- 63) 小林祥泰: 炉辺閑話: 「一期一会」を生んだ埋木舎. *日本医事新報*, 108-109, 2008
- 64) 小林祥泰: 脳梗塞の危険因子の男女差. *Bios*, 13: 7-8, 2008
- 65) 卜蔵浩和, 山口修平: 反応抑制に関わる前頭葉内機能局在に関する研究. 健康長寿社会を創出するための医工農連携プロジェクト 平成19年度成果報告書, 76-77, 2008
- 66) 小林祥泰: 心原性脳塞栓症の疫学 update. *Heart View*, 12: 46-50, 2008
- 67) 小林祥泰, 内尾祐司, 桑原 聡, 園生雅弘, 橘 滋國: 標準的神経治療: 手根管症候群 (CTS). *神経治療学*, 25: 65-84, 2008
- 68) 権 哲峰, 卜蔵浩和, 飯島献一, 小黒浩明, 山口修平: 健常成人の脳萎縮に関する無症候性脳梗塞、高血圧の影響. *日本老年医学会雑誌*, 45: 175-181, 2008
- 69) 門脇秀和, 松井龍吉, 須山信夫, 山口修平, 小林祥泰, 足立経一: 栄養サポートチーム (NST) 活動が全身状態の改善に極めて有用であった1例. *島根医学*, 28: 51-56, 2008
- 70) 卜蔵浩和, 山口修平: 高次脳機能障害の画像診断 5. 脳波、脳磁図. *神経内科 特別増刊号*, 68: 62-69, 2008
- 71) 三瀧真悟, 福田 準, 木谷光博: 横静脈洞血栓症にて一過性に皮質盲を呈した1例. *臨床神経学*, 48: 351-354, 2008
- 72) 小林祥泰: わが国における脳血管障害の変遷と現状. *内科*, 101: 821-826, 2008
- 73) 小林祥泰: (神経疾患治療ノート) 虚血性脳血管障害-無症候性脳梗塞. *Clinical Neuroscience*, 26: 580-581, 2008
- 74) 西野吉彦, 長野和雄, 紫藤 治, 森田栄伸, 小林祥泰: 木材と和紙を用いた病棟病室内装の改装が室内の温湿度環境に及ぼす効果. *森林バイオマス利用学会誌*, 3: 21-25, 2008
- 75) 山口武典, 有賀 徹, 木村和美, 栗原正紀, 小林祥泰: これからの脳卒中医療体制. *病院新時代*, 2-7, 2008
- 76) 小黒浩明: 「脳卒中 一次予防と二次予防の薬物管理」 8 脳卒中に関するギモン! 脳卒中後遺症の痴呆 原因と薬物療法について. *薬局* 2008年7月号, 83-88, 2008
- 77) 森山繭子, 近藤正宏, 村川洋子: TNF 阻害薬と悪性腫瘍. *分子リウマチ治療*, 2: 35-38, 2008
- 78) 山口修平: 脳の老化を防ぐには. *有終*, 18: 5-6, 2008

- 79) 山口修平：脳卒中と認知症の発症機序に関する研究．平成19年度島根難病研究所研究報告，2008
- 80) 山口修平：タラソテラピー（海洋療法）による脳活性化の評価システムの構築．出雲市平成18，19年度研究報告，2008
- 81) 小林祥泰：総合内科専門医の育成のために 患者に求められる総合内科専門医．日本内科学会雑誌，97：1711-1716，2008
- 82) 豊田元哉，飯島献一，高橋一夫，ト蔵浩和，山口修平：遷延性意識障害から回復したサイトメガロウイルス脳炎うたがいの1例．臨床神経学，48：481-485，2008
- 83) Ohta H, Tanabe Y, Nishino Y, Maruyama M, Katakura K, Matsuzaki K, Li G, Kobayashi S, Shido O: Effects of summertime redecoration of a hospital isolation room on occupiers' physiological functions. (隔離病室の内壁改善が短期滞在者の生理機能に及ぼす効果-夏季での検討-). Jpn J Biometeorology (日本生気象学会雑誌), 45: 73-84, 2008
- 84) 小林祥泰：緑陰随筆：大国主命は医薬の神様．日本医事新報，93，2008
- 85) 山口修平，小黒浩明，ト蔵浩和，長井 篤：脳血管障害の治療の進歩（特集/神経疾患治療の進歩（2007年））．神経治療学，25：379-382，2008
- 86) 小林祥泰：日常診療に活かすガイドライン 脳神経疾患：脳卒中治療ガイドライン 2004．診断と治療，96：1890-1901，2008
- 87) 三瀧真悟，福田 準，木谷光博：当院における脳梗塞患者の動向について．益田赤十字病院誌，5：1-3，2008
- 88) 小林祥泰：首の動脈硬化による脳梗塞が増加中。早期発見には首の超音波検査が必要不可欠．安心，42-44，2008
- 89) 内山真一郎，木村和美，小林祥泰，岡田 靖：病態変遷に即した脳卒中の治療・予防．治療学，42：89-96，2008
- 90) 小林祥泰：わが国における脳卒中治療の現状．救急医学，32：1503-1506，2008
- 91) 小林祥泰：脳卒中のパラダイムシフト—Brain Attack 時代の最新動向— 脳卒中データベース Stroke Databank．医学の歩み（別冊），223：28-34，2008
- 92) 小林祥泰：臨床像からみた高齢者脳血管障害の特徴．老年医学 (Geriatric Medicine)，46：1145-1150，2008
- 93) 大久保昭行，山口修平，植松大輔，棚橋紀夫：(座談会) 脳卒中の臨床-実地医家による治療・予防戦略-．Medical Practice，25：2157-2171，2008
- 94) ト蔵浩和，山口修平：実地医家が行う処方の実例 脳出血、脳梗塞、くも膜下出血の慢性期治療．Medical Practice，25：2239-2244，2008
- 95) 山口修平，米原希実，飯島献一，狩野賢二：タラソテラピー（海洋療法）による脳活性化の評価システムの構築．平成19年度島根難病研究所研究報告，1-5，2008
- 96) 小林祥泰：専門医制度と救急医療 1：内科学会から 救急医療にも対応できる総合内科

専門医の育成．治療学，42：67-70，2008

97) 小林祥泰：脳卒中領域における新年の展望．ドクターカン，53：3-7，2009

98) 小林祥泰：炉辺閑話：メディカルスクールに思う．日本医事新報，54，2009

99) 白澤 明，山口修平．脳卒中とよく似た病気，からだの科学，50-53，2009

100) 小林祥泰：脳梗塞治療の進歩と問題点（教育講演）．神経治療学，25：647-653，2008

101) 大櫛陽一，小林祥泰：医療経済学的視点から見た高血圧治療．脳卒中，30：943-947，2008

102) 小林祥泰：我が国における脳血管疾患の現状と予知予防．人間ドック学会誌，23：805-821，2008

103) ト蔵浩和：無症候性脳梗塞、無症候性脳出血と高血圧（認知機能にも触れて）．脳と循環，14：27-29，2009

104) 山口修平：遂行機能障害と前頭葉ネットワーク．認知神経科学，10：284-289，2008

105) 森山繭子，近藤正宏，村川洋子：Biologics ケース・スタディ 安全性 TNF 阻害薬と悪性腫瘍．分子リウマチ治療，1：85-88，2008

106) 林 公美，山本昌弘，村川洋子，山内美香，梶 博史，山口 徹，杉本利嗣：男性ステロイド性骨粗鬆症における腰椎・大腿骨頸部・橈骨骨密度での椎体骨折閾値の検討．Osteoporosis Japan，16：236-239，2008

## 学会発表

- 1 ) Bokura H , Yamaguchi S , Nagai A , Iijima K , Takahashi K , Kobayashi S : Metabolic syndrome is associated with silent brain infarction but not with cognitive impairment . International Stroke Conference 2007 , San Francisco , USA , February 2007
- 2 ) Takahashi K , Bokura H , Iijima K , Nagai A , Yamaguchi S , Kobayashi S : Metabolic syndrome increases the risk of ischemic stroke in women : A cohort study in a Japanese population . International Stroke Conference 2007 , San Francisco , USA , February 2007
- 3 ) Chowdhury MH , Nagai A , Takahashi K , Bokura H , Yamaguchi S , Kobayashi S : Age-related white matter changes, cerebral microbleeds and their correlation with cognitive function and depression . Brain '07 & BrainPET '07 , Osaka , MAY 2007
- 4 ) Nagai A , Umegae N , Terashima M , Kim SU , Masuda J , Yamaguchi S : Cystatin C expression in ischemic white matter lesions . Brain '07 & BrainPET '07 , Osaka , MAY 2007
- 5 ) Sheikh AM , Nagai A , Masuda J : Regulation of IL-1beta-induced proinflammatory gene expression in astrocytes and microglia by RHO kinase inhibitor , Brain '07 & BrainPET '07 , Osaka , MAY 2007
- 6 ) Bokura H , Yamaguchi S , Takahashi K , Nagai A , Iijima K , Oguro H , Toyoda G , Shirasawa A , Abe S , Kobayashi S : Metabolic syndrome is associated with silent brain lesions particularly in men, but with cognitive impairment in women . The 2nd Meeting of Asian Stroke Forum , Kyoto , September 2007
- 7 ) Yamaguchi S : Inhibitory frontal lobe function and ERPs . International Workshop on Event Related Potentials in Patients with Epilepsy , Kyoto , October 2007
- 8 ) Kobayashi S : Vascular cognitive impairment and apathy . 25th IPA 2007 Osaka Silver Congress , Osaka , October 2007
- 9 ) Sumita Y , Sugiura T , Kawaguchi Y , Kawamoto M , Katsumata Y , Soejima M , Kanno T , Tochimoto A , Masuda I , Takagi K , Hara M , Kamatani N : Association between genetic polymorphisms in the surfactant protein genes and pulmonary fibrosis in systemic sclerosis . 2007 annual scientific meeting of American college of Rheumatology , Boston MA , November 2007
- 10 ) Sumita Y , Murakawa Y , Sugiura T , Moriyama M , Kondo M , Kawakami M , Yamaguchi S : Elevated BAFF and APRIL levels in cerebrospinal fluids in patients with Neuro-Behcet's disease . 2007 annual scientific meeting of the American College of Rheumatology , Boston MA , USA , November 2007
- 11 ) 長井 篤 , 塩田由利 , 渡邊達三 , 卜蔵浩和 , 山口修平 : 脳血管性パーキンソンニズム

ADL・感情障害に対する塩酸セレギリンの効果．第8回中・四国セレギリン研究会，高知，2007年2月

12) 高橋 勉，田中順子，馬庭泰久，三上千恵，川上耕史，井上政弥，三宅隆明，津村弘人，石倉浩人：AutoPBSCTを施行した多発性骨髄腫13例の検討．第46回日本血液学会中国四国地方会，出雲，2007年3月

13) 小黒浩明，佐藤幸恵，安部哲史，山口修平，村上 陽：5-HT<sub>2A</sub>受容体拮抗薬の胃食道逆流抑制効果について - 経管栄養施行下の神経疾患高齢患者での検討 - ．第12回中国セロトニン(5-HT<sub>2</sub>)研究会，岡山，2007年3月

14) ト蔵浩和，山口修平，飯島献一，小黒浩明，高橋一夫，豊田元哉，若林規良，小林祥泰，長井 篤：降圧薬の種類による脳卒中発症率の違い - 脳ドックの追跡調査より - ．第32回日本脳卒中学会総会，福岡，2007年3月

15) 飯島献一，若林規良，豊田元哉，高橋一夫，小黒浩明，ト蔵浩和，山口修平，小林祥泰：血栓溶解療法による脳梗塞急性期治療拡大に向けての脳卒中病院前診断の試み．第32回日本脳卒中学会総会，福岡，2007年3月

16) チョードリ モンズル，長井 篤，高橋一夫，ト蔵浩和，山口修平，小林祥泰：中高年者における白質障害と臨床症状の検討．第32回日本脳卒中学会総会，福岡，2007年3月

17) ト蔵浩和，山口修平，長井 篤，飯島献一，高橋一夫，小林祥泰：無症候性脳病変、認知機能低下に關与するメタボリックシンドロームと高血圧の影響．第104回日本内科学会講演会，大阪，2007年4月

18) 長井 篤，野津吉友，寺嶋正治，柴田 宏，益田順一，山口修平：簡易測定法を用いた神経疾患における髄液シスタチンC濃度の検討．第104回日本内科学会講演会，大阪，2007年4月

19) 小林祥泰：(招請講演) 脳虚血に対して内科医は何が出来るか．第104回日本内科学会講演会，大阪，2007年4月

20) 小林祥泰：(パネルディスカッション) 心血管イベントを防ぐ - 心筋梗塞・脳血管障害のリスクと予防戦略 - 2．脳血管障害のわが国の実態と欧米との比較．第27回日本医学会総会，大阪，2007年4月

21) 小林祥泰：(特別講演) 酸化ストレスと脳卒中．第18回眼科酸化ストレス研究会，大阪，2007年4月

22) 近藤正宏，森山繭子，角田佳子，村川洋子：二次性アミロイドーシスに対してEtanerceptが有効であった2症例．第51回日本リウマチ学会総会，横浜，2007年4月

23) 森山繭子，近藤正宏，角田佳子，村川洋子：Infliximab投与後に悪性腫瘍を発病した3症例の検討．第51回日本リウマチ学会総会，横浜，2007年4月

24) 小林祥泰：無症候性脳梗塞(脳出血) 白質病変のMRI診断と対応．第16回日本脳

ドック学会総会，盛岡，2007年4月

25) 卜蔵浩和，山口修平，長井 篤，飯島献一，高橋一夫，小黒浩明，小林祥泰：脳卒中の予防と治療に関する市民の理解度調査．第16回日本脳ドック学会総会，盛岡，2007年4月

26) 権 哲峰，卜蔵浩和，長井 篤，飯島献一，小黒浩明，高橋一夫，山口修平：健常成人の脳萎縮における高血圧、無症候性脳梗塞の影響について．第16回日本脳ドック学会総会，盛岡，2007年4月

27) 角田佳子，杉浦智子，森山繭子，近藤正宏，村川洋子：神経ベーチェット病における髄液中 BAFF、APRIL の検討．第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、第16回国際リウマチシンポジウム，横浜，2007年4月

28) 梅枝伸行，岡田和悟，山口拓也，高橋一夫，山口修平：テント上穿通枝領域の進行性脳梗塞に関する臨床的検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，2007年5月

29) 豊田元哉，山口修平，卜蔵浩和：事象関連電位を用いたパーキンソン病患者の易転倒性の検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，2007年5月

30) 後藤 淳，足立智英，荒川千晶，守屋里織，野越慎二，植田敏浩，高木 誠：パーキンソン病における生活動作に伴う血圧変動の検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，2007年5月

31) Dashdemberel Narantuya，長井 篤，Sheikh Abdullah，益田順一，山口修平：BCCA閉塞モデルラットにおけるヒトミクログリア細胞株移植実験．第48回日本神経学会総会，名古屋，2007年5月

32) 小黒浩明，Bracewell M，Rafal RD，山口修平：パーキンソン病における Affordance 効果の検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，2007年5月

33) 荒川千晶，後藤 淳，足立智英，守屋里織，高木 誠：Wernicke 脳症急性期と慢性期における MRI 拡散強調画像による検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，2007年5月

34) 牛田美鈴，角田佳子，雑賀玲子，森山繭子，近藤正宏，村川洋子，山口修平：筋サルコイドーシスに胃印環細胞癌、シェーグレン症候群を合併した1例．第96回日本内科学会中国地方会，岡山，2007年5月

35) 杉谷雄一郎，角田佳子，森山繭子，近藤正宏，村川洋子，山口修平：十二指腸癌の切除後、症状改善、抗体価の低下を認めた P-ANCA 陽性顕微鏡的多発血管炎疑いの症例．第96回日本内科学会中国地方会，岡山，2007年5月

36) 高橋一夫，小黒浩明，飯島献一，卜蔵浩和，山口修平，山下智子：過呼吸発作後に生じた痙攣重積の1例．第96回日本内科学会中国地方会，岡山，2007年5月

37) 三瀧真悟，福田 準，木谷光博：脳梁体部梗塞により左手に他人の手兆候を呈した1例．第96回日本内科学会中国地方会，岡山，2007年5月

38) 塩田由利，長井篤，Dashdemberel Narantuya，若林規良，益田順一，Seung U. Kim，



山口修平：脳梗塞ラット骨髄間葉系幹細胞株移植における神経系幼若細胞の遊走誘導因子について．第48回日本神経病理学会総会，東京，2007年5月

39) 安部哲史，豊田元哉，白澤明，高橋一夫，小黒浩明，飯島献一，ト蔵浩和，山口修平：インフルエンザ脳症によるけいれん発作を繰り返した1例．第21回島根てんかん研究会，出雲，2007年6月

40) ト蔵浩和，鄭 東明，岡 達郎，山口修平：Go/NoGo 課題と Stop signal 課題における反応抑制の脳活動部位：事象関連電位と fMRI の比較．第24回日本脳電磁図トポグラフィ研究会，神戸，2007年6月

41) 小黒浩明，佐藤幸恵，安部哲史，飯島献一，山口修平：脳梗塞後遺症における胃食道逆流について - 経腸栄養施行下での食道内 pH モニターによる検討 - ．第49回日本老年医学会学術集会，札幌，2007年6月

42) 安部哲史，豊田元哉，飯島献一，ト蔵浩和，山口修平：ステロイドパルス療法が著効したムンプス感染後脳脊髄症の一例．第25回日本神経治療学会総会，仙台，2007年6月

43) 山下智子，青山淳夫，小黒浩明，ト蔵浩和，山口修平：脳梁膨大部に MRI 拡散強調で高信号を呈したインフルエンザ脳症の一例．第82回日本神経学会中国・四国地方会，宇部，2007年6月

44) 嶋原大樹，安部哲史，小黒浩明，ト蔵浩和，山口修平：脳幹背側部に MRI 拡散強調で高信号を呈した再発性脳幹脳炎の一例．第82回日本神経学会中国・四国地方会，宇部，2007年6月

45) 檜垣雄治，村上林兎，花田智樹，永井将弘：4年8ヶ月間にわたる Cabergoline 1日 2mg の投与により、特徴的心エコー所見及び病理組織所見を呈した、高度僧帽弁閉鎖不全症合併パーキンソン病の1例．第82回日本神経学会中国・四国地方会，宇部，2007年6月

46) 小黒浩明，マーチン ブレイスウェル，ロバート ラファール，山口修平：パーキンソン病における Affordance 効果および FAB の検討．第12回認知神経科学学会学術集会，福岡，2007年7月

47) ト蔵浩和，鄭 東明，岡 達郎，山口修平：Go/NoGo 課題と Stop signal 課題における反応抑制の共通脳活動部位．第12回認知神経科学学会学術集会，福岡，2007年7月

48) 檜垣雄治，山口修平：脳出血と鑑別を要する病変，脳梗塞後遷延化凝固壊死，について - 1例報告より．第25回島根脳血管障害研究会，出雲，2007年9月

49) 種田雅仁，山口拓也，岩田裕子，岡田和悟：Limb shaking (LS) で発症した中大脳動脈閉塞症の1例．第25回島根脳血管障害研究会，出雲，2007年9月

50) 白澤 明，安部哲史，豊田元哉，小黒浩明，飯島献一，ト蔵浩和，山口修平：視床下核の脳梗塞により特異な不随意運動を呈した1例．第25回島根脳血管障害研究会，出雲，2007年9月

- 5 1 ) 小黒浩明, 白澤 明, 飯島献一, 豊田元哉, 安部哲史, 卜蔵浩和, 小林祥泰, 山口修平: 脳卒中データバンクによるキサノン注の病型別使用状況, 第 1 2 回脳卒中診療とインターネット研究会, 出雲, 2 0 0 7 年 9 月
- 5 2 ) 木谷光博, 三瀧真悟, 福田 準: 当院における脳梗塞急性期の t-PA 使用経験. 第 2 6 回山陰救急医学会, 益田, 2 0 0 7 年 9 月
- 5 3 ) 飯島献一, 安部哲史, 豊田元哉, 白澤 明, 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平, 坂野勉, 小林祥泰: 急性期脳卒中における脳卒中病院前診断の試み ~ 第 2 報 ~ . 第 2 6 回山陰救急医学会, 益田, 2 0 0 7 年 9 月
- 5 4 ) 梶谷貴志, 浅津圭治, 石飛恭助, 高橋 淳, 糸賀郁夫, 森脇英治, 飯島献一: 出雲消防における脳卒中患者への対応について. 第 2 6 回山陰救急医学会, 益田, 2 0 0 7 年 9 月
- 5 5 ) 飯島献一, 安部哲史, 豊田元哉, 白澤 明, 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平, 小林祥泰: 超急性期中大脳動脈領域脳梗塞の予後に関与する因子の検討. 第 9 回中国四国脳卒中研究会, 広島, 2 0 0 7 年 9 月
- 5 6 ) 長井 篤, 下手公一, 齋藤洋司, 小林祥泰: 島根大学医学部における漢方医学教育の現状. 第 3 回漢方医学ワークショップ, 東京, 2 0 0 7 年 9 月
- 5 7 ) 小黒浩明, 豊田元哉, 安部哲史, 卜蔵浩和, 山口修平: 脊髄小脳変性症における連続経頭蓋磁気刺激 ( rTMS ) による治療効果. 第 1 回中国・四国臨床神経機能解析懇話会, 岡山, 2 0 0 7 年 1 0 月
- 5 8 ) 山口修平: 事象関連電位による前頭葉機能研究. 第 1 回中国・四国臨床神経機能解析懇話会, 岡山, 2 0 0 7 年 1 0 月
- 5 9 ) 長井 篤, 下手公一, 児玉啓介, 堀江卓史, 松本祐二, 松井龍吉, 小林祥泰: 気虚、気鬱について: 多施設共同研究. 日本東洋医学会中国支部島根県部会第 1 8 回学術講演会, 浜田, 2 0 0 7 年 1 0 月
- 6 0 ) 安部哲史, 白澤 明, 豊田元哉, 小黒浩明, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平: 情動障害を主体とした前頭葉障害を呈し、神経ペーチェット病を疑った 1 例. 第 9 回中国・四国神経免疫研究会, 岡山, 2 0 0 7 年 1 0 月
- 6 1 ) 川上耕史, 田中順子, 三上千恵, 井上政弥, 三宅隆明, 高橋 勉, 津村弘人, 石倉浩人: Langerhans 細胞腫瘍に合併した CD 5 6 +, CD 7 +, AML の 1 例. 第 6 9 回日本血液学会第 4 9 回日本臨床血液学会合同総会, 横浜, 2 0 0 7 年 1 0 月
- 6 2 ) 檜垣雄治: 4 年 8 ヶ月間にわたる Cabergoline 1 日 2 mg の投与により、特徴的心エコー所見及び病理組織所見を呈した高度僧帽弁閉鎖不全症合併パーキンソン病の一例. 第 2 回 Shimane Neurology Forum, 出雲, 2 0 0 7 年 1 1 月
- 6 3 ) 岡田和悟: 県央地区における脊髄小脳変性症 ( SCA 6 ) の一家系. 第 2 回 Shimane Neurology Forum, 出雲, 2 0 0 7 年 1 1 月
- 6 4 ) 豊田元哉: パーキンソン病における自発性低下に対するピ・シフロールの効果. 第

2回 Shimane Neurology Forum, 出雲, 2007年11月

65) 足立康二, 遠藤 章, 漆谷義徳, 大居慎治, 垣羽寿昭, 佐藤利昭: 下垂体浸潤による汎下垂体機能低下症が疑われた悪性リンパ腫の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

66) 江川雅博, 三宅隆明, 津端由佳里, 大西千恵, 川上耕史, 高橋 勉, 田中順子, 井上政弥, 石倉浩人, 杉本利嗣: 濾胞性リンパ腫へ移行した Castleman 病の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

67) 津端由佳里, 大西千恵, 中村仁美, 川上耕史, 高橋 勉, 三宅隆明, 田中順子, 井上政弥, 石倉浩人, 杉本利嗣: 悪性貧血を合併した Anaplastic large T-cell lymphoma の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

68) 三瀧真悟, 福田 準, 木谷光博: 一過性の皮質盲、全身痙攣を呈した横静脈洞血栓症の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

69) 佐藤真理子, 青山淳夫, 小黒浩明, 佐藤 宏, 陶山紳一郎, 飯島献一, 豊田元哉, 安部哲史, 卜蔵浩和, 山口修平: Codon 180点変異を認めた遺伝性 Creutzfeldt-Jakob 病の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

70) 本田 健, 豊田元哉, 安部哲史, 白澤 明, 飯島献一, 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平: ステロイドパルス併用免疫グロブリン大量療法が著効したギランバレー症候群の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

71) 福田真希, 角田佳子, 近藤正宏, 村川洋子, 山口修平: シェーグレン症候群に合併し、下腿の紫斑を繰り返す高ガンマグロブリン血症性紫斑病の1例. 第97回日本内科学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

72) 長井 篤, 下手公一, 齋藤洋司, 小林祥泰: 島根大学医学部附属病院における漢方教育・診療の現況. 第36回日本東洋医学会中四国支部総会鳥取大会, 米子, 2007年11月

73) 雑賀玲子, 飯島献一, 安部哲史, 卜蔵浩和, 山口修平: 乳癌手術後17年経過して発症した癌性髄膜炎の1例. 第19回日本老年医学会中国地方会, 岡山, 2007年11月

74) 小黒浩明, 豊田元哉, 安部哲史, 白澤 明, 卜蔵浩和, 山口修平: 脊髄小脳変性症における連続経頭蓋磁気刺激 (rTMS) による治療効果. 第37回日本臨床神経生理学会学術大会, 宇都宮, 2007年11月

75) 安部哲史, 豊田元哉, 卜蔵浩和, 山口修平: 作業記憶更新に関わる脳活動 - ERP による検討 -. 第37回日本臨床神経生理学会学術大会, 宇都宮, 2007年11月

76) 松原美和, 持田智子, 上田哲也, 加茂昌子, 山口修平: タッチパネル式パソコンゲームを用いた認知症高齢者に対する認知リハビリテーションの試み. 第31回日本高次脳機能障害学会総会, 和歌山, 2007年11月

77) 中川知憲, 豊田元哉, 小黒浩明, 飯島献一, 卜蔵浩和, 野々山深, 児玉達夫, 大平

明弘，山口修平：アレルギー性肉芽腫性血管炎（Churg-Strauss 症候群）に視神経炎を合併した 1 例．第 4 5 回日本神経眼科学会総会，大阪，2 0 0 7 年 1 1 月

7 8 ) ト蔵浩和，長井篤，小黒浩明，白澤明，山口修平：健常成人における脳室周囲白質病変の定量的測定と危険因子．第 3 回中国・四国 Vascular フォーラム，高松，2 0 0 7 年 1 2 月

7 9 ) Bokura H , Yamaguchi S , Iijima K , Nagai A : Metabolic syndrome is associated with silent ischemic brain lesions . International Stroke Conference 2 0 0 8 , New Orleans , February 2 0 0 8

8 0 ) Abe S , Bokura H , Yamaguchi S : Brain activity related to updating of verbal working memory : an ERP study . Cognitive Neuroscience Society Annual Meeting 2 0 0 8 , San Francisco , April 2 0 0 8

8 1 ) Hayashi K , Kurioka S , Kanazawa I , Takase H , Yamamoto M , Wada A , Kitagaki H , Oguro H , Nagai A , Bokura H , Yamaguchi S , Yamaguchi T , Sugimoto T : The association of cognitive dysfunction with hippocampal and brain atrophy in Japanese elderly patients with type 2 diabetes . 6 8 th Scientific Session of American Diabetes Association , San Francisco , June 2 0 0 8

8 2 ) 高橋 勉，井上政弥，川上耕史，大西千恵，三宅隆明，田中順子，石倉浩人：臍帯血ミニ移植（RICBT）後早期に septic encephalopathy, critical illness neuropathy を合併した一例．第 3 0 回日本造血細胞移植学会総会，大阪，2 0 0 8 年 2 月

8 3 ) 高橋 勉，川上耕史，井上政弥，津村弘人，三上千恵，三宅隆明，田中順子，石倉浩人：大量 VP- 1 6 療法による自己末梢血幹細胞採取効率と毒性の検討．第 6 回日本臨床腫瘍学会学術集会，福岡，2 0 0 8 年 3 月

8 4 ) 井上政弥，上村智哉，吉田理恵，今井 孝，西村信弘，前田 恵，福間 宏，直良浩司，森山一郎，若槻律子，吉村寛志，岩本喜久生 石倉浩人：外来患者における mFOLFOX 6 療法の副作用調査．第 6 回日本臨床腫瘍学会学術集会，福岡，2 0 0 8 年 3 月

8 5 ) ト蔵浩和，山口修平，長井 篤，小黒浩明，飯島献一，白澤 明：健常成人における脳室拡大、PVH の定量的評価と危険因子．第 3 3 回日本脳卒中学会総会，京都，2 0 0 8 年 3 月

8 6 ) 小黒浩明，白澤 明，飯島献一，豊田元哉，安部哲史，ト蔵浩和，小林祥泰，山口修平：急性期脳梗塞におけるオザグレルの病型別使用状況．第 3 3 回日本脳卒中学会総会，京都，2 0 0 8 年 3 月

8 7 ) ダシュデムベレル ナラントヤ，長井 篤，シェクアブドラ，渡辺達三，小林祥泰，山口修平：脳虚血ラットにおける移植ミクログリア細胞株の遊走と遺伝子発現の解析，第 3 3 回日本脳卒中学会総会，京都，2 0 0 8 年 3 月

8 8 ) 飯島献一，安部哲史，白澤 明，豊田元哉，小黒浩明，ト蔵浩和，山口修平，小林祥泰：血栓溶解療法による脳梗塞急性期治療拡大に向けての脳卒中病院前診断の試み - 第

- 2報 - .第33回日本脳卒中学会総会，京都，2008年3月
- 89) 大櫛陽一，小林祥泰：医療経済学的視点から見た高血圧治療．第33回日本脳卒中学会総会，京都，2008年3月
- 90) 小林祥泰：(教育講演)高齢者の脳血管障害．第21回日本老年脳神経外科学会，東京，2008年3月
- 91) 森木省治，西村信弘，稲垣文子，磯部 威，山口清次，柴田 宏，長井 篤，熊倉俊一，小林祥泰：島根大学医学部附属病院における感染制御情報システム導入の効果．第82回日本感染症学会総会，松江，2008年4月
- 92) 飯島献一，卜蔵浩和，山口修平，小林祥泰：脳梗塞患者における脳卒中地域連携クリニカルパスを用いた病診連携の試み．第105回日本内科学会講演会，東京，2008年4月
- 93) 角田佳子，杉浦智子，森山繭子，近藤正宏，村川洋子：神経ベーチェット(NBD)および炎症性神経疾患における髄液中BAFFレベルの比較検討．第52回日本リウマチ学会総会・学術集会、第17回国際リウマチシンポジウム，札幌，2008年4月
- 94) 近藤正宏，村川洋子，原嶋奈々江，原田 守：炎症性筋疾患におけるサイトカインとFasの役割．第52回日本リウマチ学会総会・学術集会，札幌，2008年4月
- 95) 松浦晃宏，小黒浩明，山口修平：反復経頭蓋磁気刺激による運動関連電位変化．第43回日本理学療法学会大会，福岡，2008年5月
- 96) 河野直人，安部哲史，豊田元哉，小黒浩明，飯島献一，山口修平，下手公一：左半身のしびれに牛車腎気丸と桂枝茯苓丸が有効であった一症例．第13回島根中医学会，出雲，2008年5月
- 97) 豊田元哉，卜蔵浩和，飯島献一，白澤 明，河野直人，安部哲史，小黒浩明，山口修平：心原性脳塞栓症の重症度と発症前治療．第49回日本神経学会総会，横浜，2008年5月
- 98) 岩田裕子，岡田和悟，山口拓也，山口修平：パーキンソン病における主観的アパシー(意欲障害)の検討．第49回日本神経学会総会，横浜，2008年5月
- 99) 小黒浩明，豊田元哉，安部哲史，河野直人，白澤 明，飯島献一，卜蔵浩和，山口修平：脊髄小脳変性症における反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)の治療効果．第49回日本神経学会総会，横浜，2008年5月
- 100) 河野直人，卜蔵浩和，小黒浩明，豊田元哉，白澤 明，山口修平：脳ドック受診者における総頸動脈最大内膜厚に関連する危険因子の検討．第49回日本神経学会総会，横浜，2008年5月
- 101) 長井 篤，チョドリーモンズル，シェクアブドラ，渡邊達三，小林祥泰，益田順一，山口修平：脳虚血モデルにおけるrhoキナーゼ阻害剤のミクログリア/マクロファージ抑制効果．第49回日本神経学会総会，横浜，2008年5月
- 102) シェクアブドラ，長井 篤，若林規良，塩田由利，山口修平，益田順一：Mesenchymal

stem cell transplantation inhibits iNOS and Cox-2 in MCAO rats. 第49回日本神経学会総会, 横浜, 2008年5月

103) 後藤 淳, 足立智英, 米田純子, 荒川千晶, 野越慎司, 植田敏浩, 高木 誠: 総合病院神経内科における acute movement disorder に関する検討. 第49回日本神経学会総会, 横浜, 2008年5月

104) 塩田由利, 長井 篤, Abdulah Md. Sheilh, 益田順一, Seung U. Kim, 山口修平: シスタチン C 刺激培養神経細胞におけるアポトーシス関連因子の発現. 第49回日本神経病理学会総会, 東京, 2008年5月

105) 清原信昭, 豊田元哉, 安部哲史, 河野直人, 白澤 明, 小黒浩明, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平: 肺癌転移による動眼神経麻痺の1例. 第98回日本内科学会中国地方会, 宇部, 2008年5月

106) 河野直人, 安部哲史, 豊田元哉, 小黒浩明, 飯島献一, 山口修平, 下手公一: 左半身のしびれに牛車腎気丸と桂枝茯苓丸が有効であった一症例. 第13回島根中医学会, 出雲, 2008年5月

107) 河野直人, 卜蔵浩和, 小黒浩明, 豊田元哉, 白澤 明, 山口修平: 脳ドック受診者における総頸動脈最大内膜厚に関連する危険因子の検討. 第49回日本神経学会総会, 横浜, 2008年5月

108) 山口修平: 前頭葉機能の加齢性変化 - 脳機能画像を中心に -. 第8回日本抗加齢医学会総会, 東京, 2008年6月

109) 小黒浩明, 山口修平, 清原信昭: 反復経頭蓋磁気刺激治療におけるけいれん合併について. 第22回島根てんかん研究会, 出雲, 2008年6月

110) 渡邊達三, 長井 篤, 塩田由利, ダシュデンベレル ナラントヤ, 小林祥泰, 山口修平: ラット脳虚血モデルにおけるヒト神経幹細胞株移植による脳浮腫抑制効果. 第26回日本神経治療学会総会, 横浜, 2008年6月

111) 安部哲史, 豊田元哉, 河野直人, 白澤 明, 小黒浩明, 飯島献一, 卜蔵浩和, 山口修平: 無為、無動に donepezil HCl が有効であった日本脳炎の1例. 第26回日本神経治療学会総会, 横浜, 2008年6月

112) 小黒浩明, 佐藤幸恵, 安部哲史, 飯島献一, 山口修平: 脳梗塞後遺症およびパーキンソン病における胃食道逆流について - 経腸栄養施行下での食道内 pH モニターによる比較検討 -. 第50回日本老年医学会学術集会, 千葉, 2008年6月

113) 小林祥泰: 脳梗塞治療の進歩と問題点. 第26回日本神経治療学会, 横浜, 2008年6月

114) 卜蔵浩和: 無症候性脳病変に対する対応改訂概要. 第17回日本脳ドック学会総会, 郡山, 2008年6月

115) 卜蔵浩和, 山口修平, 小黒浩明, 飯島献一, 長井 篤, 小林祥泰: 健常成人における脳室拡大、PVHの定量的評価と認知機能の関連. 第17回日本脳ドック学会総会, 郡山,

2008年6月

116) 渡邊伸英, 白澤 明, 青山淳夫, 雜賀玲子, 安部哲史, 三瀧真悟, 豊田元哉, 河野直人, 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平: 高 IgE 血症を伴い末梢神経障害を合併したアトピー性脊髄炎と考えられた1例. 第84回日本神経学会中国・四国地方会, 米子, 2008年7月

117) 江川雅博, 安部哲史, 山口修平: 脳梗塞後の重度アパシーに対し、塩酸ロピニロールが有効であった1例. 第84回日本神経学会中国・四国地方会, 米子, 2008年7月

118) 小林祥泰: 脳ドックの現状: 脳ドックガイドライン. 第11回日本病院脳神経外科学会, 札幌, 2008年7月

119) Oguro H, Satou Y, Murakami Y, Abe S, Yamaguchi S: Gastro-esophageal reflux (GER) in stroke patients with enteral feeding. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, September 2008

120) Kohno N, Bokura H, Oguro H, Toyoda G, Shirasawa A, Yamaguchi S: Relationship between carotid intima-media thickness and cardiovascular risk factors and silent brain lesions in normal adults. The 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, September 2008

121) Bokura H, Yamaguchi S, Nagai A, Oguro H, Kobayashi S: The assessments of quantitative changes for the lateral ventricles and periventricular hyperintensity areas and their relations to cardiovascular risk factors. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, September 2008

122) Kobayashi S: Post-stroke apathy and depression (President's Address). The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, November 2008

123) Nagayama M, Kobayashi S, Shinohara Y: Creation of precise and effective DVD for education of stroke from the patient's perspective. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, November 2008

124) Bokura H, Nagai A, Oguro H, Kobayashi S, Yamaguchi S: The relationship of cognitive functions with longitudinal changes of lateral ventricle, periventricular hyperintensity and silent brain infarction in normal elderly persons. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, November 2008

125) Maeda K, Toyoda K, Minematu K, Kobayashi S, The Japan Standard Stroke Registry Study Group: Effects of patients' age on clinical features of acute ischemic stroke. The Japan Standard Stroke Registry Study. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, November 2008

126) Nozu S, Tanaka M, Morikawa K, Nakashima H, Hibara C, Bokura H, Yamaguchi S, Kobayashi S: The reliability and usefulness of the Functional Independence Measure

for stroke patients .The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference ,Fukuoka ,November 2008

1 2 7 ) Toyoda G , Bokura H , Oguro H , Nagai A , Shirasawa A , Kohno N , Mitaki S , Abe S , Aoyama A , Saika R , Yamaguchi S : The effects of cilostazol on cognitive function in stroke patients .The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference ,Fukuoka ,November 2008

1 2 8 ) Kohno N , Abe S , Kobara C , Oguro H , Bokura H , Egawa M , Toyoda G , Yamaguchi S : D3 receptor agonist , ropinirole , improves post stroke cognitive impairment . The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference , Fukuoka , November 2008

1 2 9 ) Masuhara K , Fukushima E , Kuruma M , Bokura H , Yamaguchi S , Oguro H , Toyoda G , Shirasawa A , Kobayashi S : The functional evaluation of activity of daily living for stroke outpatients . The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference , Fukuoka , November 2008

1 3 0 ) 青山淳夫 , 豊田元哉 , 高橋一夫 , 河野直人 , 山下詔嗣 , 卜蔵浩和 , 山口修平 : 延髄内側梗塞 2 症例の検討 . 第 26 回島根脳血管障害研究会 , 出雲 , 2008 年 9 月

1 3 1 ) 岩田裕子 , 山口拓也 , 岡田和悟 : Limb shaking ( LS ) で発症した中大脳動脈狭窄の一例 . 第 26 回島根脳血管障害研究会 , 出雲 , 2008 年 9 月

1 3 2 ) 河野直人 , 小黒浩明 , 卜蔵浩和 , 安部哲史 , 豊田元哉 , 山口修平 : ドパミンアゴニストにより脳梗塞後の認知情動障害の改善がみられた 2 症例 . 第 10 回中国四国脳卒中研究会 , 岡山 , 2008 年 9 月

1 3 3 ) 豊田元哉 , 卜蔵浩和 , 山口修平 : 健常成人における無症候性脳梗塞、脳室拡大、PVH の定量的評価と認知機能の関連 . 第 32 回日本神経心理学学会総会 , 東京 , 2008 年 9 月

1 3 4 ) 三瀧真悟 : 当院における多発性硬化症症例の検討 . MS ファイアサイドミーティング , 出雲 , 2008 年 9 月

1 3 5 ) 高橋 勉 , 秋元美穂 , 三島清司 , 川上耕史 , 大西千恵 , 井上政弥 , 三宅隆明 , 田中順子 , 津村弘人 , 石倉浩人 , 本間良夫 : 骨髄性白血病細胞の分化誘導に対する Hedgehog シグナル阻害薬 Cyclopamine の促進効果 . 第 70 回日本血液学会総会 , 京都 , 2008 年 10 月

1 3 6 ) 豊田元哉 , 清原信昭 , 小黒浩明 , 安部哲史 , 河野直人 , 白澤 明 , 山口修平 : 肺癌転移による動眼神経麻痺の 1 例 . 第 46 回日本神経眼科学会総会 , 新潟 , 2008 年 10 月

1 3 7 ) 山口修平 : 神経疾患の漢方治療 . 第 19 回日本東洋医学会中・四国支部島根県部会 , 松江 , 2008 年 10 月

1 3 8 ) 池尻文良 , 三宅隆明 , 三上千恵 , 川上耕史 , 井上政弥 , 高橋 勉 , 田中順子 , 石倉浩人 : 診断に苦慮した非分泌型多発性骨髄腫の 1 例 . 第 65 回山陰血液同好会 , 松江 , 2008 年 10 月

1 3 9 ) 小林祥泰 : 半夏厚朴湯が重症筋無力症による嚥下障害に奏効した 2 例 . 第 37 回日本東洋医学会中四国支部総会島根大会 , 松江 , 2008 年 10 月



- 140) 雑賀玲子, 小黒浩明, 小池大輔, 豊田元哉, 長井 篤, 山口修平: L-DOPA が一時的に有効であった発作性ジストニア性舞蹈アテトーゼ疑いの一例. 第2回中国・四国臨床神経機能解析懇話会研究講演会, 高松, 2008年11月
- 141) 渡辺達三, 陶山紳一郎, 佐藤 宏, 山口修平, 長井 篤: クリプトコッカス髄膜炎を合併した原発性胆汁性肝硬変の1例. 第99回日本内科学会中国地方会, 米子, 2008年11月
- 142) 小黒浩明, 卜蔵浩和, 山口修平, 清原信昭: びまん性レビー小体病および甲状腺機能低下に悪性症候群を発症した1例. 第99回日本内科学会中国地方会, 米子, 2008年11月
- 143) 須田道雄, 清原信昭, 古家寛司, 山口拓也, 岩田裕子, 赤木収二, 岡田和悟: 低体重・意識障害で入院した糖尿病4症例. 第99回日本内科学会中国地方会, 米子, 2008年11月
- 144) 向菜津子, 遠藤 章, 漆谷義徳, 大居慎治: 多発脳神経麻痺で発症した中枢神経悪性リンパ腫の1例. 第99回日本内科学会中国地方会, 米子, 2008年11月
- 145) 三瀧真悟, 卜蔵浩和, 山口修平: t-PAを使用した高齢脳梗塞患者の検討. 第20回日本老年医学会中国地方会, 米子, 2008年11月
- 146) 安部哲史, 豊田元哉, 卜蔵浩和, 山口修平: 視覚情報及び空間情報の作業記憶更新に関わる脳活動-ERPによる検討-. 第38回日本臨床神経生理学会学術大会, 神戸, 2008年11月
- 147) 小黒浩明, 豊田元哉, 安部哲史, 白澤 明, 卜蔵浩和, 山口修平: パーキンソン病における反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) による治療効果. 第38回日本臨床神経生理学会学術大会, 神戸, 2008年11月
- 148) 松浦晃宏, 小黒浩明, 山口修平: 反復経頭蓋磁気刺激による大脳皮質興奮性変化-運動関連電位による検討-. 第38回日本臨床神経生理学会学術大会, 神戸, 2008年11月
- 149) 宇野誓子, 宮本真理, 田中延子, 狩野賢二, 柴田宏, 長井 篤, 山口修平, 飯島献一, 加藤洋介, 福田千佐子, 廣岡保明: Head-up tilt test を用いた睡眠時無呼吸患者の自律神経機能評価. 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 2008年11月
- 150) 三上千恵, 池尻文良, 川上耕史, 井上政弥, 高橋 勉, 三宅隆明, 田中順子, 石倉浩人: 経過中に中枢神経系に浸潤を来したマントル細胞リンパ腫の一例. 第37回島根造血器腫瘍研究会, 出雲, 2008年11月
- 151) 檜垣雄治: ALS 緩和ケアにおけるクロルプロマジン、モルヒネ、ミダゾラムの使用経験. 第85回日本神経学会中国・四国地方会, 岡山, 2008年12月
- 152) 雑賀玲子, 卜蔵浩和, 豊田元哉, 井上政弥, 川上耕史, 山口英敏, 山口修平: 細菌性髄膜炎に恥骨結合炎を合併した一例. 第85回日本神経学会中国・四国地方会, 岡山, 2008年12月
- 153) 豊田元哉: 脳梗塞患者の認知機能に対するシロスタゾールの検討. 第4回中国・四

国 Vascular フォーラム，岡山，2008 年 12 月

154) 細見直永，河野雅和，小林祥泰：心原性脳塞栓の予後に影響を与える因子の解析-  
抗血栓療法効果を含めて-JSSRS．第 4 回中国・四国 Vascular フォーラム，岡山，2008 年 12  
月